耳塚 寛明 / MIMIZUKA, Hiroaki

理事(副常務)

■研究成果情報

連絡先

Email: mimizuka.hiroaki@ocha.ac.jp

専門分野

教育社会学

■研究成果情報

青少年期から成人期への移行についての追跡的研究(JELS)

キーワード

学力形成、進路選択、学歴希望、移行、家庭的背景

研究内容

■概要（背景・目的・内容）

21世紀初頭の変動社会におけるトランスジェンション・教育システムの“危機”として、社会学（学力・能力・パーソナリティの形成）の危機、人材選抜と配分（職業への円滑な移行）の危機、社会化と選抜・配分を通じた平等社会の実現における危機などが挙げられる。これらの危機も青少年期から成人期への円滑な移行という観点からみて、そのあり方を再検討することが必要とされる。本研究は日本の青少年の学齢期から青年期にかけてのトランスジェンションの過程を主として数値の大きさによって観察し、学力・能力、アシデーション、進路・職業生活の計画的ポータリートを手に入れる方法を目的とする。これにより、家庭的背景（社会階層、経済と文化）、学校的背景、地域的背景（労働市場を含む）との関わりにおいて説明し、政策インパクトを得る。

■プロセス

2003年から2011年にかけて、関東地方のAエリアと東北地方Cエリアにおいて、小3、小6、中3、高3コースを対象に、①児童生徒質問紙調査、②同学生徒調査、③担任教員質問調査、④保護者質問調査、⑤高3卒業生の決定進路等に関する調査、⑥進路指導担当教員聞き取り調査などを3回実施し、青少年の学力および進路形成過程を総合的に把握し、家庭的背景・文化的経済的環境と、教師のパーソナリティや進路指導実践との間の相互作用を社会学的に明らかにすることを試みる。学力調査の問題も質問紙調査の質問も独自に設計・開発した。調査の設計図は次のページの通りである。

■研究例示

・小学生の学力について、都市部と地方都市において異なる規定要因が視出された。大都市近郊では、家庭的背景が学力分布を説明する上で大きな役割を果たした。家庭での学習態度以上に、学習態度が学力形成、保護者の強い学歴期待と学力が結び付いている。一部の地域では、アレントクラシスへの道を歩んでいると推測される。

社会貢献実績

・研究成果報告書の刊行 JELS報告書第1～14集
  (http://www.ii.ocha.ac.jp/hsedisc/mimizuka/JELS_HP/Welcome.html参照)
・対象エリアの教育行政、学校、保護者、児童生徒を対象とする調査結果のフィードバック
・公開セミナーとシンポジウムの開催
・国内・海外の学会における口頭発表
・論文、著書の執筆

産学官・社会連携の可能性

■共同研究／技術提供／知見の教授・共有（公開講座、ワークショップ等の実施／出版／その他）

・学校現場と協力して青少年の学力と進路形成に関する実践研究へ協力する可能性があります。
・実践的な研究の事例として、パネルデータの収集や分析ノウハウの形成に寄与します。
・香港、上海など児童生徒質問調査を実施し、香港大学、復旦大学と共同して、国際比較研究を進めています。
・学力形成、進路形成、学校外教育などについて、公開講座の講師をお引き受けできます。